

一切経堂



享保7年(1722年)に建立された転輪経蔵で、略して経堂や輪蔵と称されます。一般に「一切経」を奉安してあるので、「一切経堂」といいます。この一切経といわれる、仏教の経典やその注釈書など全ての聖典をまとめたものが、お堂内の八角形の回転輪蔵に納められていて、これを一度回すと一切経を全て音読したのと同じ功德があるとされています。

現在は中に入って回す事が出来ません。お堂の入口正面に掲げられた「一切経蔵」という扁額は1814年(文化11年)「白河楽翁」といわれた松平定信の筆によるものです。彫工は柴田喜四郎

松平定信は陸奥白河藩第3代藩主「大名」で江戸幕府第8代将軍・徳川吉宗の孫

一切経堂は1722(享保7)年に建立され、現在の一切経堂は文化6年(1809年)に再建された。
 (22)1831(天保2)年(31)1962(昭和37)年(34)1966(昭和41)年(20)1986(昭和61)年(12)1998(平成10)年(11)2009(平成21)年と多くの修復を繰り返してきました。

再建後7回修復 20~30年に1回修復

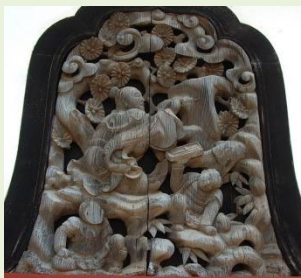
1937年(昭和12年9月)には、2,7メートル程後方に移転して修理した。

輪蔵は今から1500年ほど前に傅大士が発明しました。普建(長男) 傅大士 普成(次男)

堂内には中国で仏教を広めるためにつくした傅大士(497年~569年)父子の像があります。

転輪蔵を創始した傅大士は経典の守護者とか何時も微笑みを浮かべていた為、「笑い仏」とも呼ばれています。奥左側に安置されているのは賓頭盧尊者像(びんずるそんじゃぞう)撫で仏です。

火頭窓(花頭窓)



1 寄題仙遊寺

(左側面前)



2 画竜点睛

(正面左)



3 許由巢父

(正面右)



4 雁と亀と唐子

(右側面前)

塚原桂昌作



5 [司馬温公・瓶割り図]

(左側面後)



6 [諸葛孔明]

(背面左)

(2010年信徒奉納)



7 [菊慈童]

(背面右)



8 [寒山・拾得]

(右側面後)

一切経堂の彫刻

子供相撲

大人相撲



寝入る子

かんざんじつとく
【寒山拾得】



びん 損 びん しけん
【閔 子騫】（儒学者）

ろうらいし
【老来子】（老来子） 【正面慕股】



ろうこうせんじん
【廬敖仙人】

【馬上で矢を射る】



【波の中】

【松に人物二人】



ろうこうせんじん こうあんせんじん
【廬敖仙人】又は黄安仙人 身の丈三尺程の亀に乗っていて、その亀は三千年に一度だけ頭を出す。

ある人が仙人に聞きました。「亀は今までに何回頭を出した」と訪ねると、「5回出した」と答えたそうです？ と云う事は、この仙人最低一万五千年は生きている事になります。

老来子（70歳）は

派手な服を着て赤ちゃんのように振る舞い、年老いた親を喜ばせた。

関子騫 関損（びんそん、孔子の弟子で、その徳行は顔淵と並ぶほどであり、「二十四孝」の一人。

関子騫の母は早くに亡くなり、父は再婚した。継母は二人の子をもうけた。関子騫は両親に非常に孝行であったが、継母は彼を嫌い、実の子二人には綿入れの服を作ってやっても、彼の冬着には葦の穂を使った。

冬の寒い日、父は関子騫に馬車を御するよう言った。彼は全身凍え、手綱が思うように持てず、何度も落とした。父はそれを責めたが、彼は何も弁解しなかった。しばらくして、父は彼の顔色が真っ青なのを見て、服を触ってみると、それはとても薄く、綿入れではなかった。事情のわかった父はひどく悲しみ、妻に暇を出すことにした。すると、関子騫は、涙ながらに父に、「母がいて寒い思いをするのは私一人ですが、母がいなくなれば子供三人が辛酸を嘗めることになります」と訴えた。継母はそれを聞いて、いたく感動し、過ちを悔い改め、その後は、慈母のように、三人の子供に公平に接するようになった。

寒山拾得

中国唐代中期の寒山と拾得の二人の高僧。二人とも奇行が多く、詩人としても有名だが、その実在すら疑われることもある。拾得は天台山国清寺の食事係をしていたが、近くの寒巖に隠れ住み乞食こじきのような格好をした寒山と仲がよく、寺の残飯をとっておいては寒山に持たせてやったという。また、この二人は文殊菩薩、普賢菩薩の生まれ変わりといわれる。

中国、唐代の隠者、詩人である寒山と拾得のこと。9世紀ごろの人。確実な伝記は不明。ただ寒山の詩の語るところでは、寒山は農家の生れだったが本を読んでばかりいて、村人にも妻にも疎まれ、家をとび出して放浪の末に天台山に隠棲した。既成の仏教界からも詩壇からもはみ出した孤高な隠者として300余首の詩を残した。拾得と豊干（ぶかん）とは、寒山伝説がふくらむ過程で付加された分身と認められる。その詩は独自の悟境と幽邃（ゆうすい）な山景と重ね合わせた格調高い一群のほか、現世の愚劣さや墮落した僧侶道士を痛罵した一群の作品があり、ともに強固な自己疎外者としての矜持（きようじ）を語っている。

「菊慈童」能楽 太平記巻十三「龍馬進奏の事」

周の穆王は、よい馬を手に入れ方々を回り、釈尊に出会い国を治める法を授かりました。これが、法華経の中の八句の偈です。ある時、帝が寵愛なさっていた童子が、過って帝の御枕を、またいでしまいました。そして、彼は野獣の住むような寂しいレッケンに流罪にされます。

これを知った帝は、かわいそうに思い、例の八句の偈のうちの二句をそっと伝授なされました。

流された慈童は悲しみながらも帝に言われた通りに、授けられた偈を毎朝唱えていましたが、もしかしたら忘れてしまうこともあるかもしれないと思い、菊の葉にこれを書き付けました。その後、この菊の葉にたまった露がわずかずつ落ちて、川を流れる水がすべて天の甘露の靈薬になったのです。慈童が喉の渇きをおぼえてこの水を飲むと大変甘く、どんな珍味にも勝っていました。そして、天人が花を捧げて飛来し、鬼人が手をそろえて奉仕しましたので、野獣の心配もなくなりました。それどころか、平凡な慈童に羽が生じ仙人となったのです。これだけでなく、谷の下流の水を飲んでいて三百余軒の人々は、皆病気が治り不老不死の長寿を保ったのでした。こうして、時代は移り八百余年ののちまで、慈童は少年の容貌で、老い衰えることがありませんでした。時がたち、魏の文帝のとき、慈童は召しだされ彭祖と名を変えた時に、この偈を文帝にお授けしました。

能楽『菊慈童』では、枕が出てきますし、慈童が彭祖に変わったことにはなっていません。

このように少しずつアレンジされています 彭祖（ほうそ）中国古代の伝説上の長寿者。

文帝（前202—前157）中国、前漢の第5代皇帝（在位前180～前157）。姓名は劉恒（りゅうこう）。

廟号（びょうごう）は太宗（たいそう）。高祖劉邦（りゅうほう）と薄太后（はくたいごう）との子。